



東京の農業振興と農地保全を担う研修生と共に

研修農場新聞

(公財) 農林水産振興財団
八王子研修農場
(発行責任者)
農場長 小寺孝治
(無料)

令和4年度の
研修スタート

魅力ある農業の実現を！



式典後に第1期生を囲んでの記念撮影

第一期生は2年間の研修を終え、去る3月24日に修了式が行われ、岩瀬理事長から修了証書が授与された。修了生からは「研修では多くのことを学んだ。栽培上の失敗も今後の糧にしていきたい。また、この間多くの方のご支援があつて東京の農家としてスタートラインに立てることができた。これからは地域に貢献できる魅力ある農業を一生懸命頑張っていきたいと思います」など一人ずつ決意表明も語られた。その後、岩瀬理事長はじ

新たな門出を祝して

東京農業アカデミー八王子研修農場は開設3年目となり、この4月から第三期生と新たな職員スタッフを迎え、10名の研修生に実践的な研修活動を始めた。



各自のおよその営農計画を構築しつつ、既に3月から自分の区画圃場において将来を見据えた独自の就農モデルでの作付けなども開始



第一期生の意気込み

第一期生の取組姿勢を手本に、第二期生の5名も就農に向けてキアを入れ替えてきている。各自のおよその営農計画を構築しつつ、既に3月から自分の区画圃場において将来を見据えた独自の就農モデルでの作付けなども開始

第三期生入講式

令和4年度の第三期生入講式が4月8日に農林水産振興財団(立川庁舎)の講堂で行われた。新研修生は20代から40代の5名。岩瀬理事長から「昨今、コロナ禍や国際情勢により、私たちの生活に様々な影響が出てきているが、よく考え本質的にやるべきことを押さえて取り組むことが必要。皆さんも自分でやるべきことが決まっている。自分の考えをより発展させ、描いた将来に向かってしっかりと進められるよう財団を挙げて応援していく。力を合わせて頑張らしましょう」と力強いエールが送られた。



ご来賓の東京都農業振興事務所の渡邊所長、東京都

農林水産部の野瀬課長、東京都農業会議の角田専務理事からは「東京で新しい農業者になるため、様々な知識や技術を身につけてほしい。人生をかけての決心・選択だと思つ、その成功を心から祈念する。東京農業の力強い担い手に育つていただきたい」など多くの激励をいただいた。

第三期生からの声を一言ずつ紹介する。①雨宮弘直(八王子市)さんは、期待4と不安6だが、頑張つて2年後は期待10にしたい。②関拓真(西東京市)さんは、不安も多いが勉強して2年後は農家として羽ばたきたい。③高見健太郎(東村山市)さんは、子供たちに安全でおいしい野菜を届けるために、2年間頑張りたい。④玉川敏弘(八王子市)さんは、2年間しっかりと学び、継続できる農家になりたい。⑤中村しのお(八王子市)さんは、アカデミーの新たな歴史を作りたいと、それぞれの思いが述べられた。



1~3月の主な出来事・作業

- (1月)
 - 4日 仕事始め、18日 進行管理
 - 20日 八王子市内農地視察、26日 アゴラ造園視察
 - 27日 日の出町農地視察、29日 内定者説明会
 - フードバンク提供 7、14、19、21日
- (2月)
 - 1~15日 農道地の伐採工事、15日 農業会議打合せ
 - 16~17日 小型車両系建設機械特別教育
 - 21日 農業振興事務所とJA東京中央会へ就農挨拶
 - フードバンク提供 2、14、16、18、25、28日
- (3月)
 - 7日及び15日 国立市役所 11日 臨時職員採用面接
 - 18日 研修成果報告会 24日 一期生修了式
 - フードバンク提供 2、4、7、11、14、16、18日

今後の予定など

二期生は各自の主力品目を中心に指導を受けながら主体的に管理を行う。三期生は夏野菜の基本的な栽培技術や機械操作等の実習と野菜栽培の基礎的な知識習得のための講義などを行う。

これまでの天候

2月は上旬と下旬に平年より気温がやや低い日がみられたが、そのほかは1月から3月までほぼ平年並みに推移した。ソメイヨシノの開花は3月20日と平年に比べて4日早かった。降雪は1月6日と3月22日で、降雪はなかったが、全体に降水量が少なく畑が乾燥気味であった。

職員の異動等

(転入) 井出野勉、五十嵐清晃(採用) 小山亨、金田知花、(転出) 菊池正人、(退職) 小山知生、望月美江。

各種SNS情報

研修農場では、研修状況等をツイッターやフェイスブック、インスタグラム等で配信しています。ご活用ください。『東京農業アカデミー八王子研修農場』と検索してみてください！

八王子研修農場
ホームページ